## 核なき世界をこどもたちに!安心できない原発事故の脅威原子力行政の転換を!いのちと平和と環境を守りましょう!

院内共闘 平和ニュース No1042011.4.30

## チェルノブイリ原発事故25周年

## 原発問題学習会土庫病院で開催!



チェルノブイリ事故から 25 周年にあたる 4 月 26 日、土庫病院で原発問題学習会を開催しました(土庫病院平和委員会・大和高田市平和委員会主催 土庫病院院内共闘後援)。地域からも含めて 30 名参加。

「放射線とは何か」について土庫病院放射線技師の松村恒氏より報告。ベクレル、シーベルト等が飛び交うマスコミ情報に対して、放射線の種類と単位の基本的な知識を教えてもらいました。

もう一人の講師溝川氏は、福島原発事故は人災だったとして、①警告無視:国も電力会社も原子力安全・保安院も"原発安全神話を信仰し、情報を公開せず、国民の安全より企業利益第一主義に走ったのが最

大の要因。②初動の遅れ:一刻を争う重大局面に菅首相、班目原子力安全委員長は、本部を離れ現地視察。視察から戻っても、12 日 20 時 5 分の海水注入命令まで 10 時間以上もきちんとした対応を取らなかった。

そして原発依存から太陽光発電、風力発電など自然エネルギーへ転換を、「大量生産、大量消費、大量廃棄」 から低エネルギー社会へと締めくくりました。

参加者からは、「東京に住んでいたが、子どもを遊ばせるのも怖くなって、実家のある奈良へ避難してきた。 東京に住んでいいのか悩んでいる。最悪の事態はどのくらいの確率でおこるのでしょうか?」「廃炉にするとは どのようなこと?」「原発推進してきたこれまでの政権の責任は重大」「チェルノブイリの 10 分の 1 というが本 当?」などの質問や意見が出され、溝川氏より「チェルノブイリとの違いはまだ放射線物質の流出が続いていて、 被害の規模が分からないこと」「正確な情報の公開が何よりも重要」「廃炉するにも十分熱を冷まして安定するま

で5年くらいはかかる」など一つひとつ丁寧に回答がありました。

参加者の感想は、「目に見えないものなので、どのような影響があるか何も知らずにいると怖いし、本当はどうなのか心配」、「原発は一度重大事故をおこすと暴走するのでやはり自然エネルギーが安全」、「格納している建屋が大仏の3倍以上の巨大なものであることに驚いた。廃炉にするのにも大変だ」など、地域からの参加も含め熱心な討論となりました。「これから解決まで長期間になります。継続的な学習と行動を」呼び掛けて学習会を終えました。